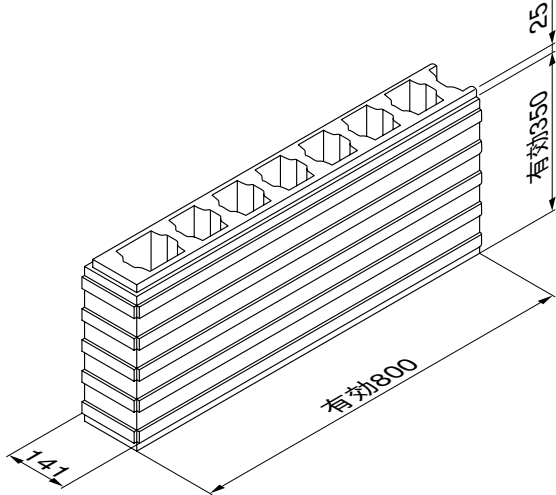
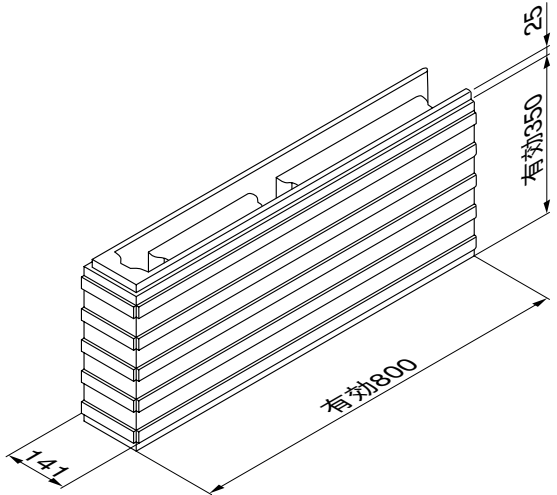
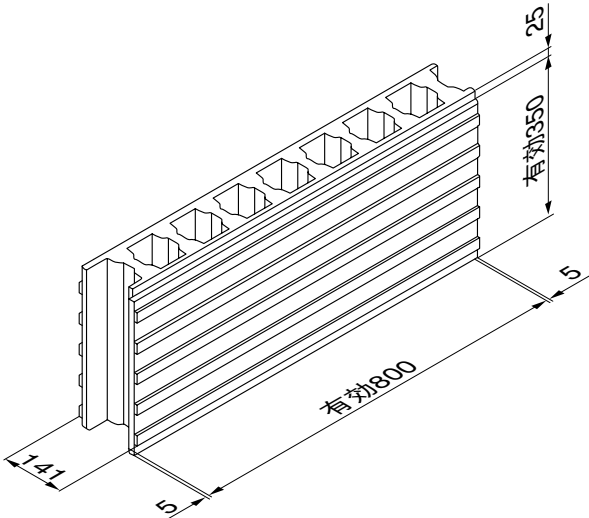
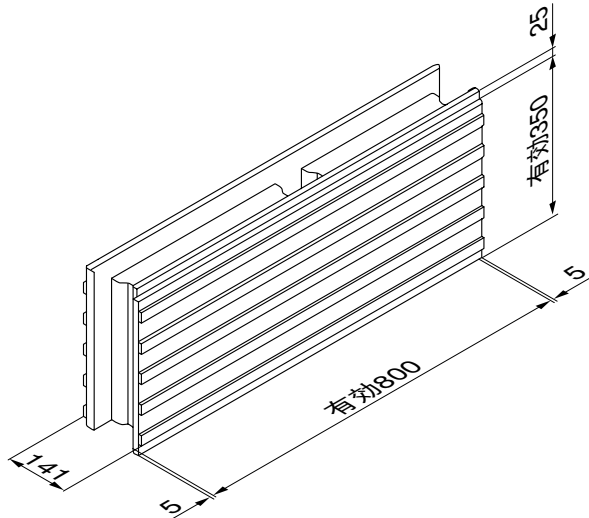


テグラウォール


- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 正しく施工、組付をしていただく為に、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

■梱包明細表


①ブロックセット

名 称	員 数	名 称	員 数
標準端部用ブロック	4	横筋端部用ブロック	4
			
名 称	員 数	名 称	員 数
標準中間用ブロック	4	横筋中間用ブロック	4
			

②鉄筋クリップセット

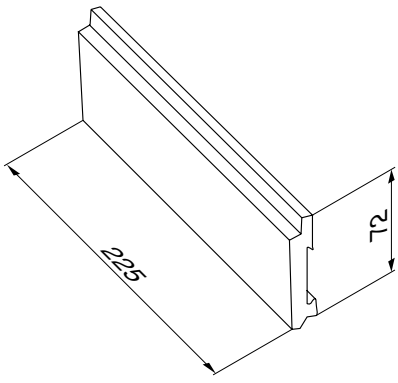
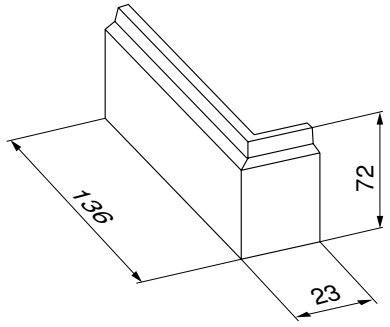
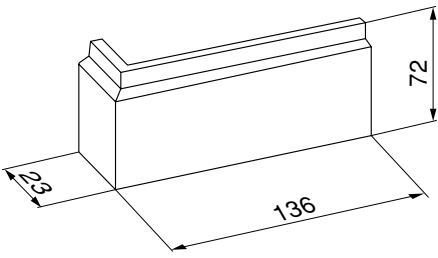
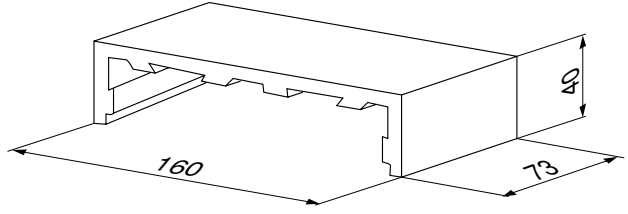
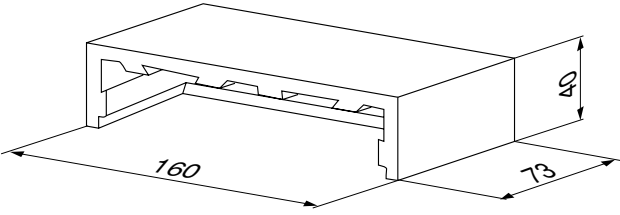
名 称	員 数
鉄筋クリップ	100
	

③接着剤セット

名 称	員 数
接着剤	10
	

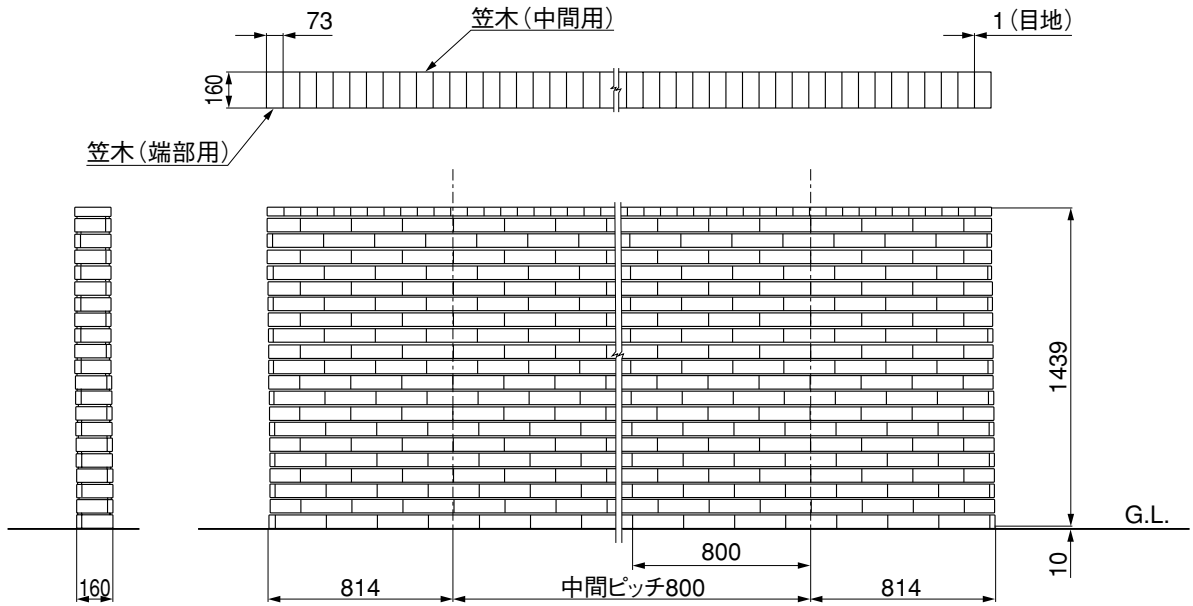
■梱包明細表 つづき

④タイル形状一覧

名 称	員 数	名 称	員 数
二丁掛け平 大箱	60	曲右 23+136	46
二丁掛け平 小箱	34		
			
名 称	員 数	名 称	員 数
曲左 23+136	46	笠木 中間用	10
			
名 称	員 数		
笠木 端部用	2		
			

2. 塀仕様

2-1 直線部姿図および各部寸法

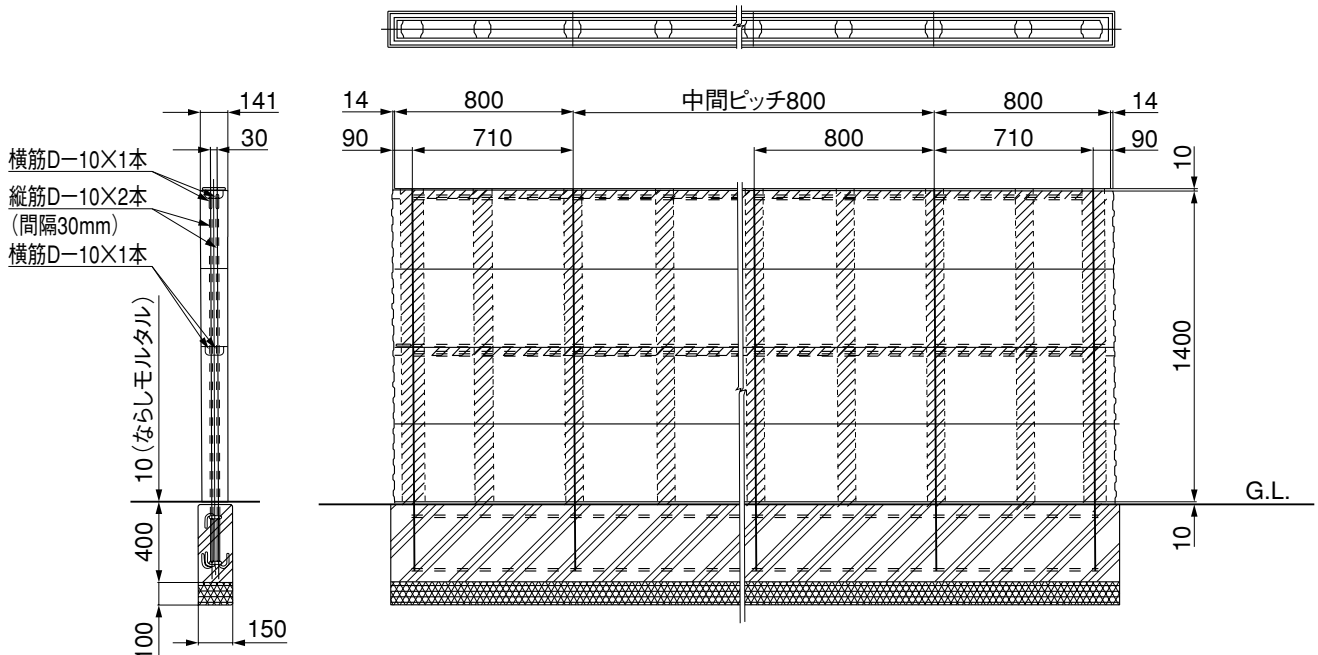


- 本図はブロック4段積みの場合を示します。(ブロック1段は350mmです。)

<注意>

- ブロックは4段積みまで可能です。

2-2 直線部基礎および下地ブロック寸法

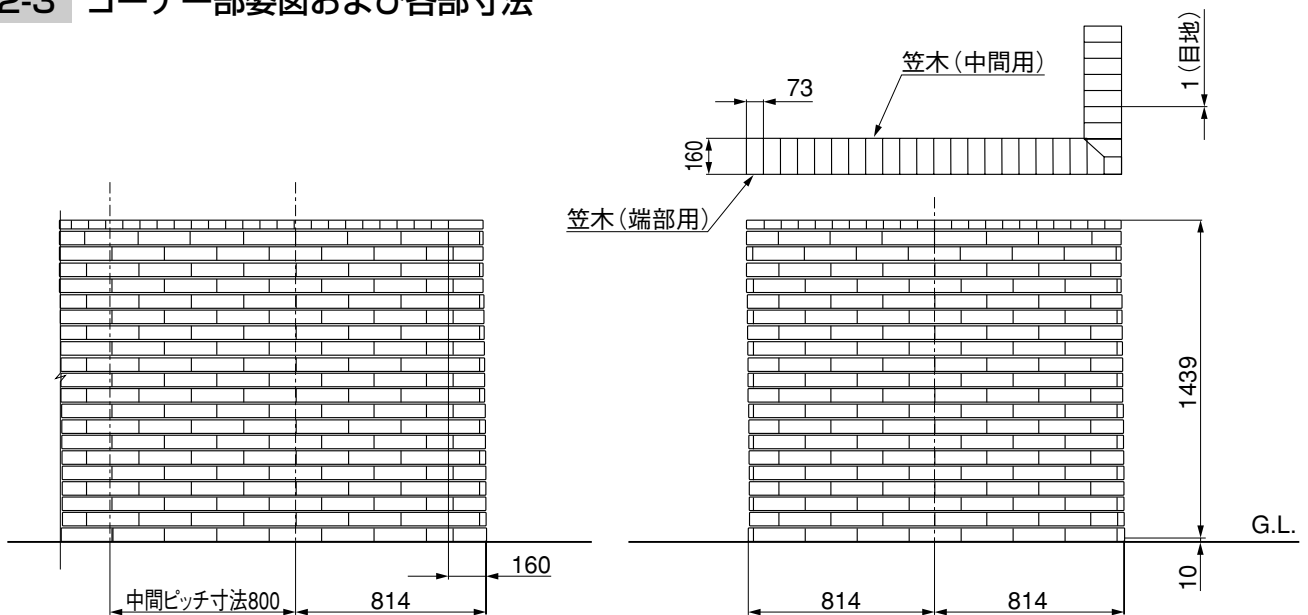


<注意>

- 鉄筋はD-10×2本、ピッチ800以下にしてください。
- 黄筋はD-10×1本、ブロック2段ごとに配筋してください。(3段積みの場合は2段目と3段目に配筋)
- モルタルの配合は1:3(セメント砂)で使用してください。左官用の軽量骨材等は強度低下をまねきますので絶対に使わないでください。

2. つづき

2-3 コーナー部姿図および各部寸法

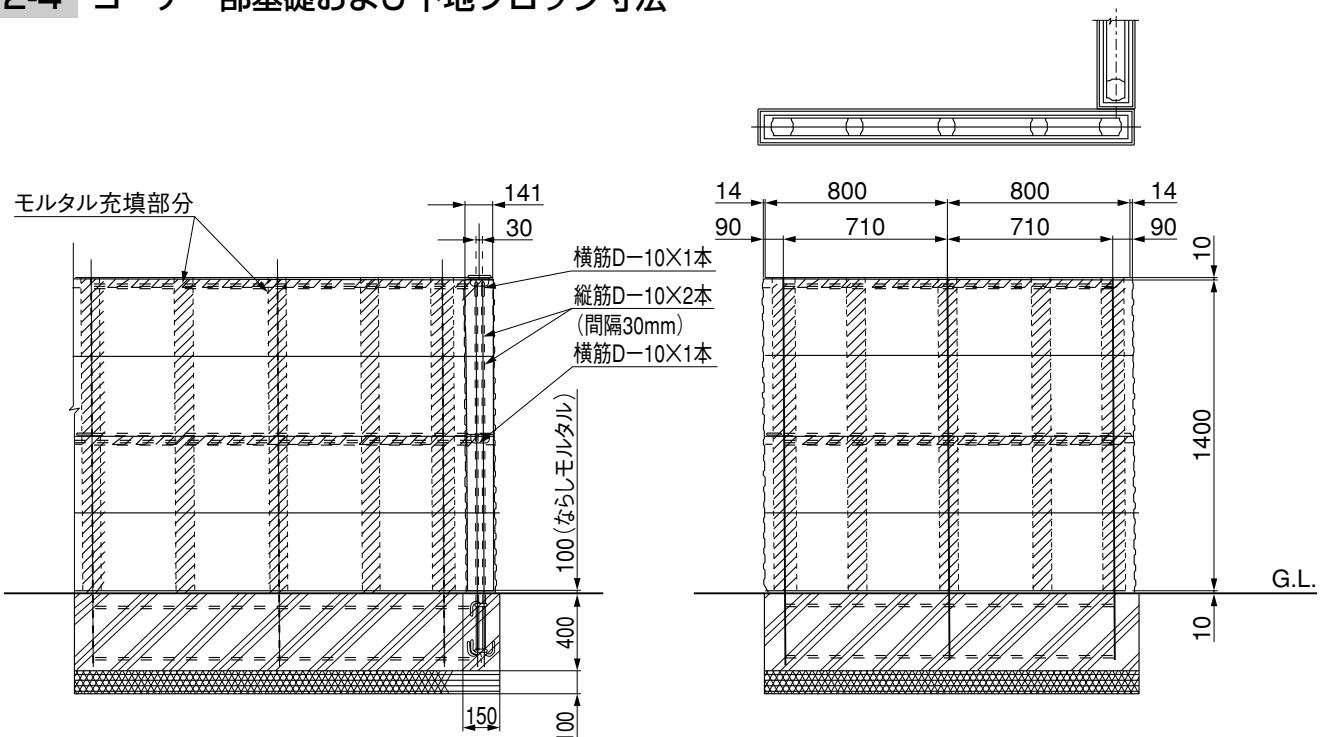


- 本図はブロック4段積みの場合を示します。(ブロック1段は350mmです。)

<注意>

- ブロックは4段積みまで可能です。

2-4 コーナー部基礎および下地ブロック寸法

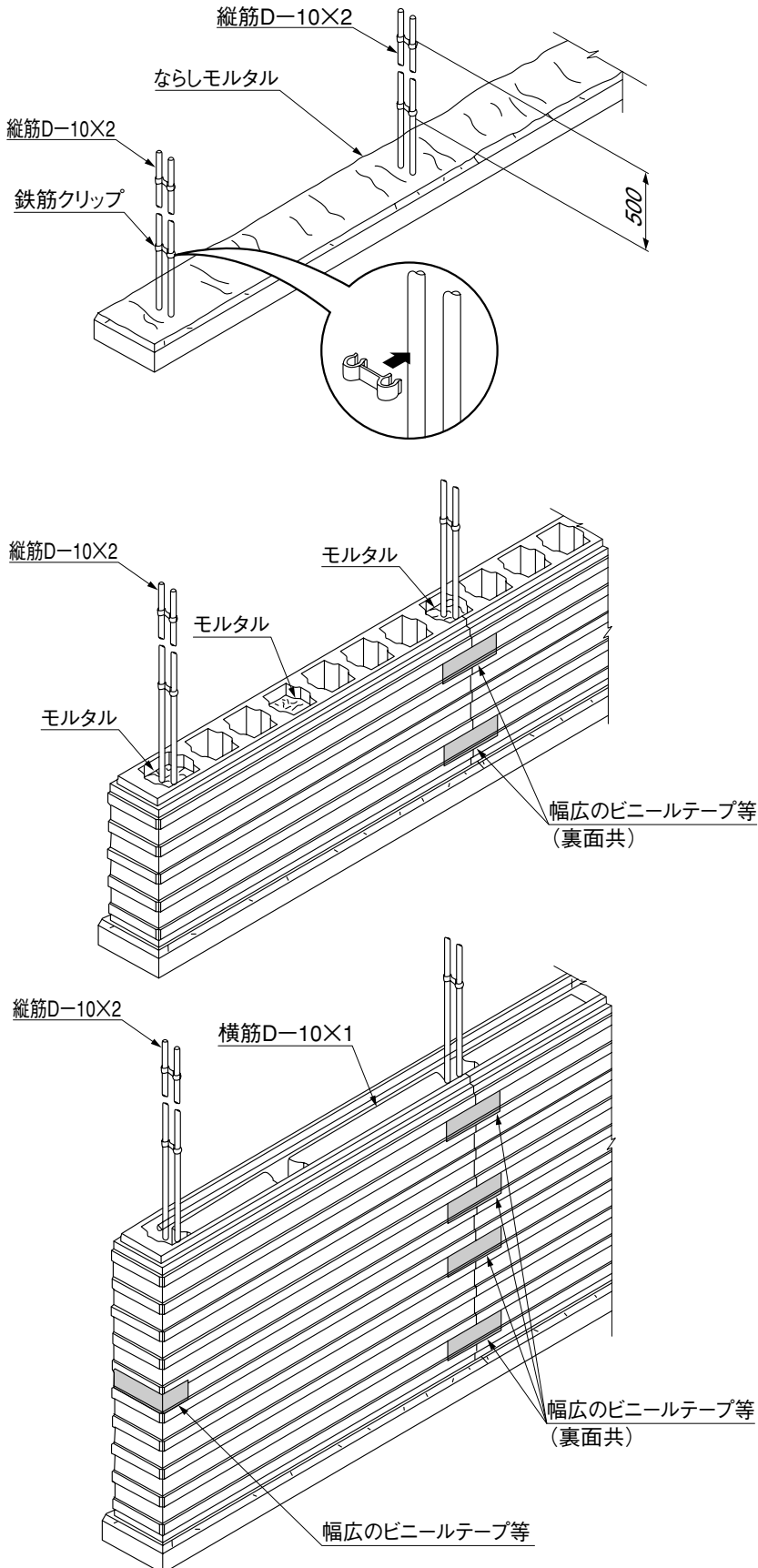


<注意>

- 鉄筋はD-10×2本、ピッチ800以下にしてください。
- 黄筋はD-10×1本、ブロック2段ごとに配筋してください。(3段積みの場合は2段目と3段目に配筋)
- モルタルの配合は1:3(セメント砂)で使用してください。左官用の軽量骨材等は強度低下をまねきますので絶対に使わないでください。

3. 塀仕様 ブロック施工方法

3-1 直線部分



- ① 基礎の上面に、ならしモルタルを20mm程度施してください。鉄筋の間隔を保つため、鉄筋施工前に「鉄筋クリップ」で固定してください。(ピッチ500mm)

<注意>

- 鉄筋クリップは、モルタル充填前にはずしてください。

- ② 1段目のブロックをならしモルタルに押さえつけレベルを調整してください。レベルが決まりましたらブロックのジョイント部を幅広のビニールテープ等で仮固定してください。ブロックの両端と中間の孔にモルタルを充填してください。

<注意>

- ブロックを安定させるため、1段目のみ、その他の孔にもモルタルを半分程度充填してください。3段目も同じように施工してください。

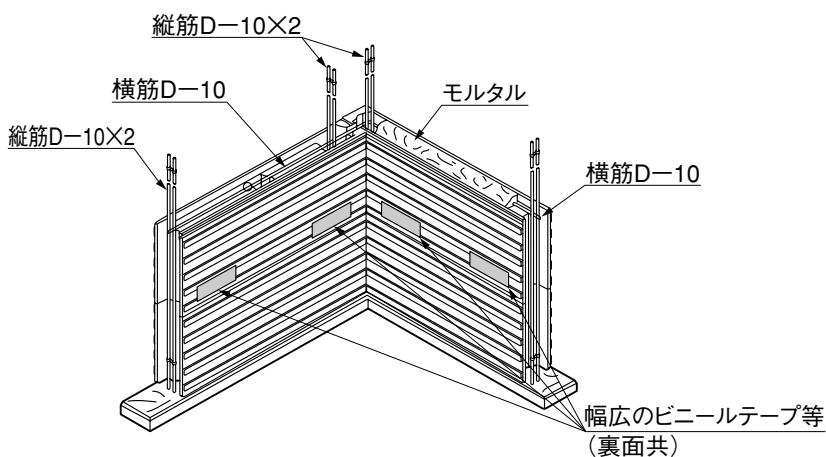
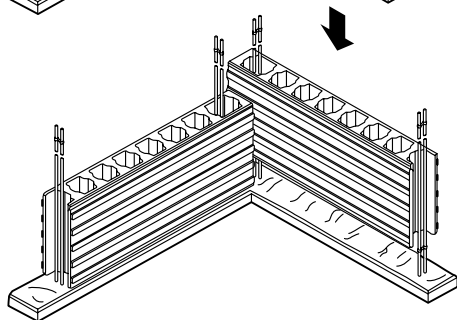
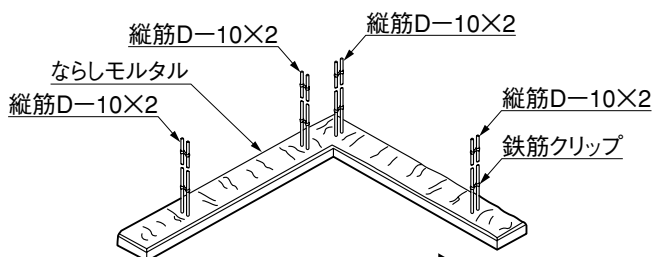
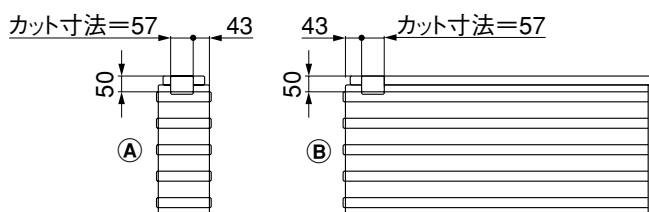
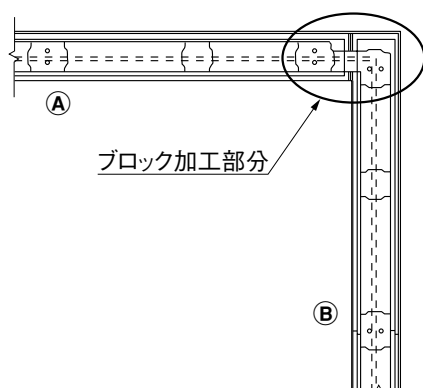
- ③ 2段目、4段目には横筋ブロック 積んでモルタル、横筋を入れてください。モルタル充填時のずれを防ぐため、左図のようにブロックの上下と左右のジョイント部を幅広のビニールテープ等で仮固定します。仮固定後モルタルを充填してください。

<注意>

- ブロックの横筋用の溝には必ずモルタルを全充填してください。所定の強度が得られなくなります。
- 最上段のブロックの天端よりモルタルが高くならないようにしてください。笠木施工時に不陸の原因になります。
- ブロックの施工後は充填したモルタルが完全に硬化するまで、必ず添木等でブロックを固定してください。固定しなかったり、不十分だったりすると風や人の接触による揺れでモルタル柱の強度が低下します。

3. つづき

3-2 コーナー部分



- ❶ ブロックを積む前に、黄筋とモルタルがつながるように、ブロックA・B共、左図の要領でカットしてください。
- ❷ 基礎の上面に、ならしモルタルを20mm程度施してください。鉄筋の間隔を保つため、鉄筋施工前に「鉄筋クリップ」にて固定してください。(ピッチ500mm)

<注意>

- 鉄筋のクリップは、モルタル充填前にはずしてください。

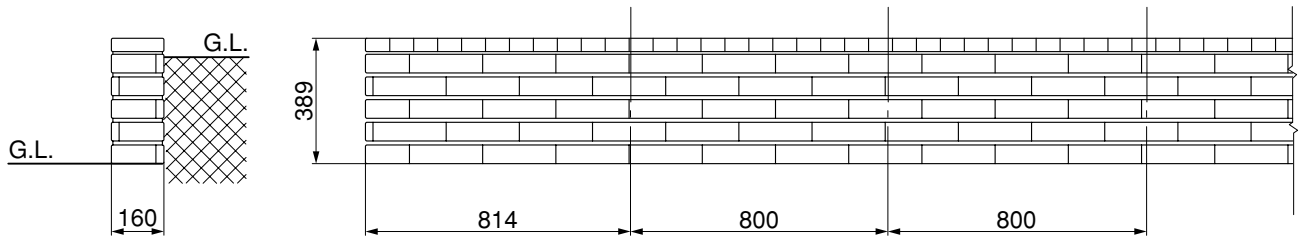
- ❸ 標準端部用ブロックを左図のように積んでください。ブロックの両端と中間モルタルを充填してください。ブロックを安定させるため1段目のみ他の孔にもモルタルを半分充填してください。3段目も同じように施工してください。
- ❹ 2段目、4段目には加工を行なった横筋ブロックA・Bを左図のように積んでモルタル、横筋を入れてください。モルタル充填時のずれを防ぐため、左図のようにブロックの上下と左右のジョイント部を幅広のビニールテープ等で仮固定します。仮固定後モルタルを充填してください。

<注意>

- ブロックの横筋用の溝には必ずモルタルを全充填してください。所定の強度が得られなくなります。
- 最上段のブロックの天端よりモルタルが高くなるようにしてください。笠木施工時に不陸の原因になります。
- ブロックの施工後は充填したモルタルが完全に硬化するまで、必ず添木等でブロックを固定してください。固定しなかったり、不十分だったりすると風や人の接触による揺れでモルタル柱の強度が低下します。

4.プランターおよび埋戻し

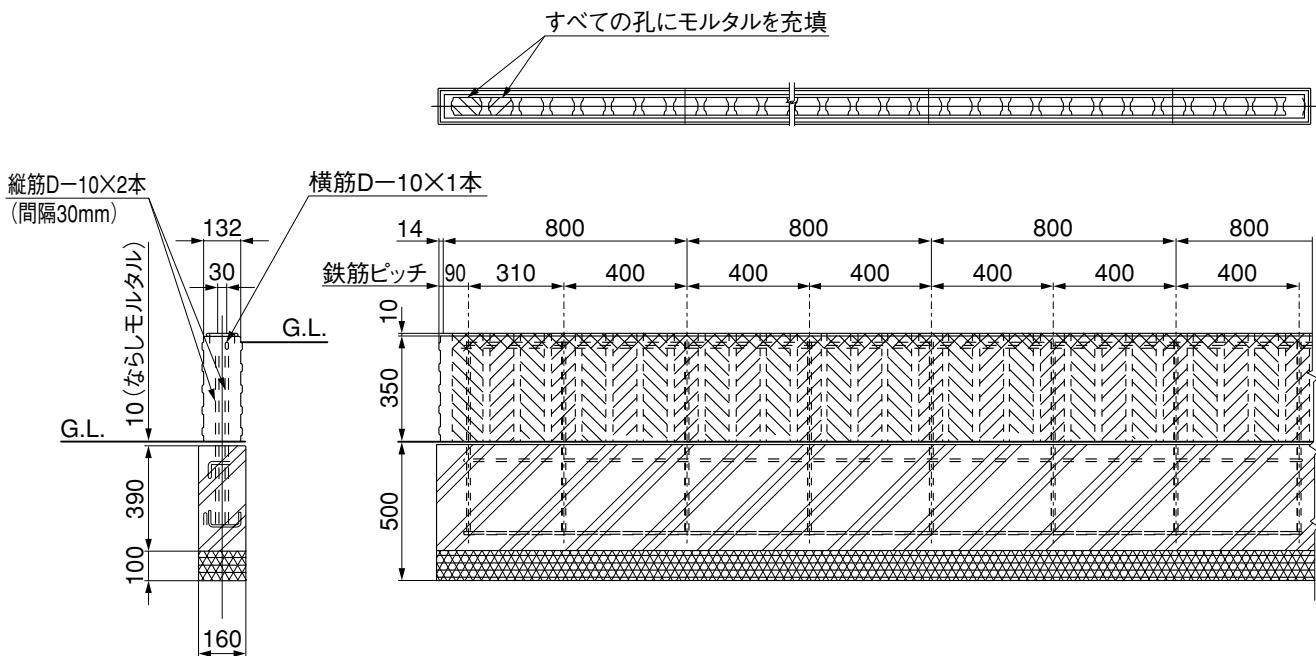
4-1 姿図および基本寸法



<注意>

- プランターおよび埋戻し仕様は、ブロック1段分のみ可能です。

4-2 基礎および下地ブロック寸法

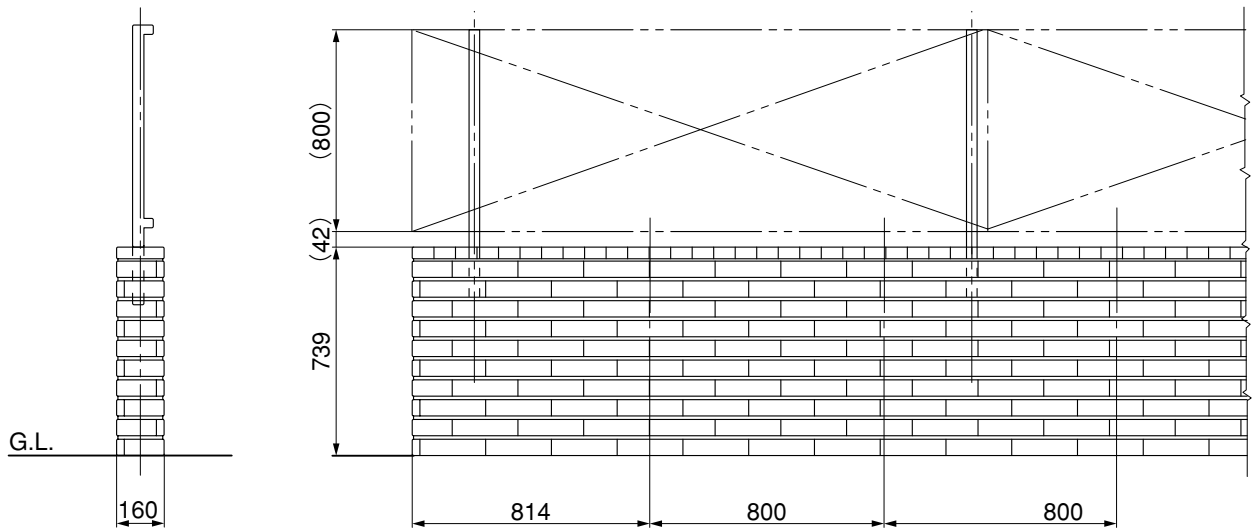


<注意>

- 鉄筋はD-10×2本、ピッチ400以下にしてください。
- 黄筋はD-10×1本配筋してください。
- 黄筋用ブロックのすべての孔の上部をくりぬいてモルタルを充填してください。

5. フェンス仕様（フリーポール）

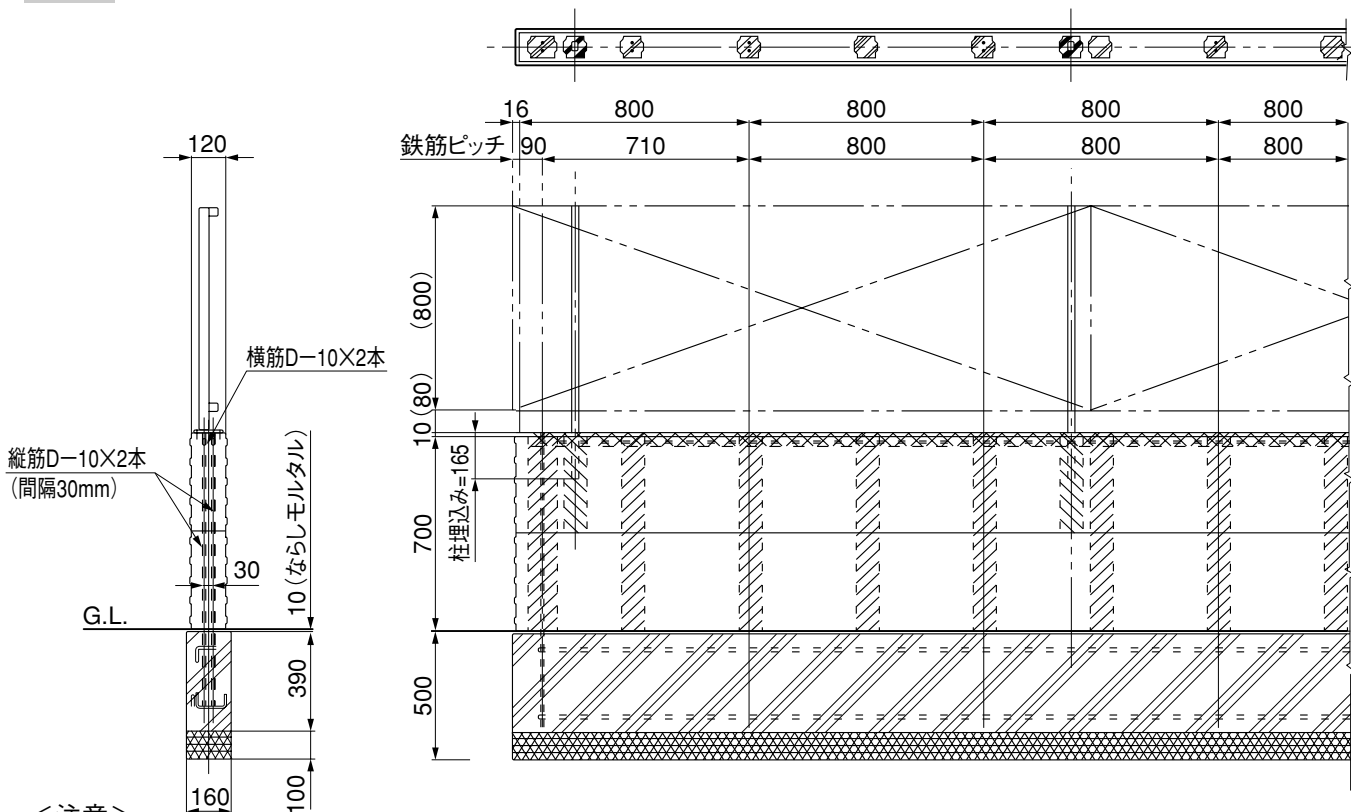
5-1 姿図および各部名称



<注意>

- フェンス仕様はブロック2段積みまで可能です。
- フェンスはT-8まで取付けが可能です。

5-2 基礎および下地ブロック寸法

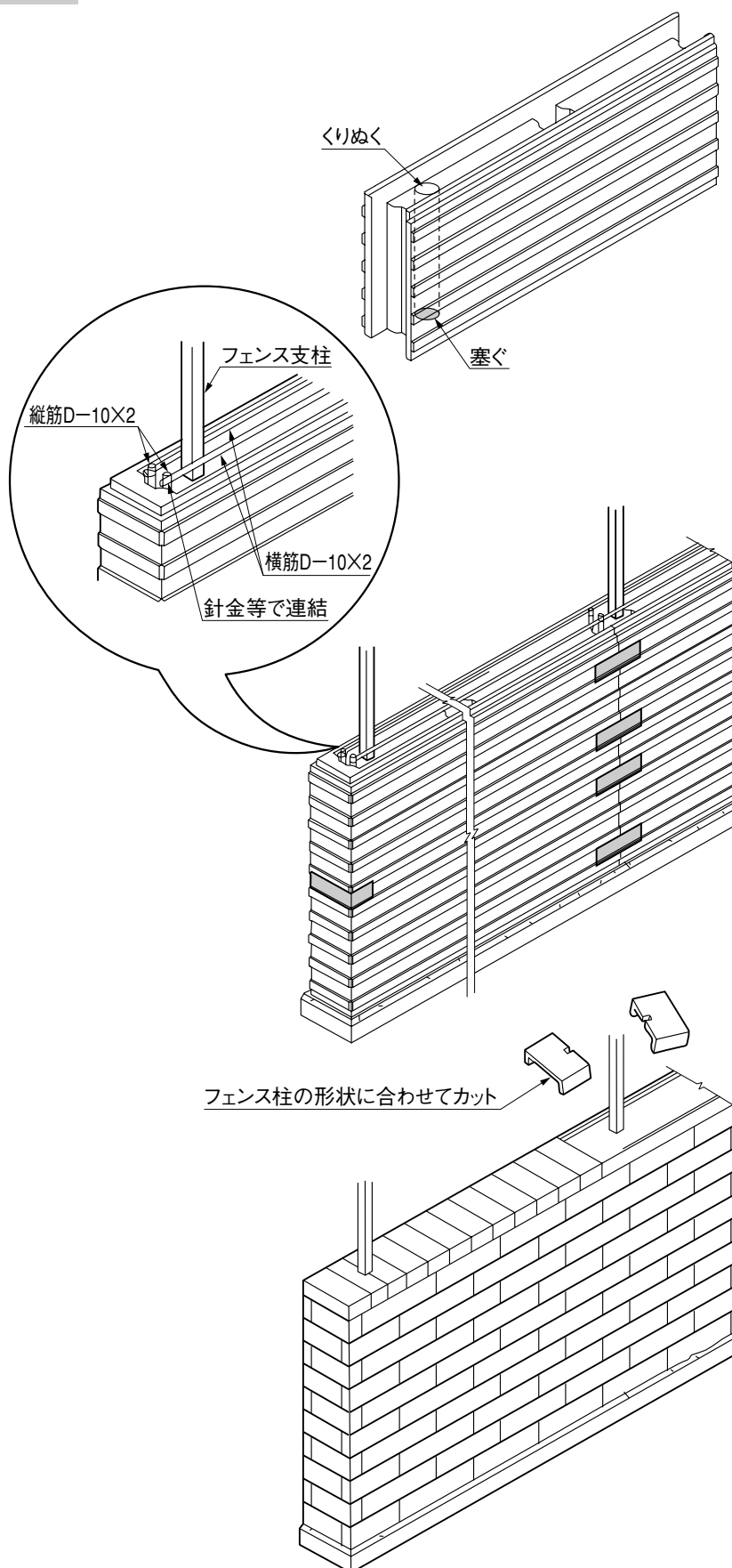


<注意>

- 鉄筋はD-10×2本、ピッチ800以下にしてください。
- 黄筋はD-10×2本最上部のブロックのフェンス支柱に配筋してください。
- モルタルの支柱が細まる部分の横筋ブロックの孔、上端をくりぬぎ、逆に下端テープ、発泡剤等で塞いでください。
- フェンスの支柱部分のブロック孔はモルタルを全充填してください。

5. つづき

5-3 フェンス仕様の施工方法



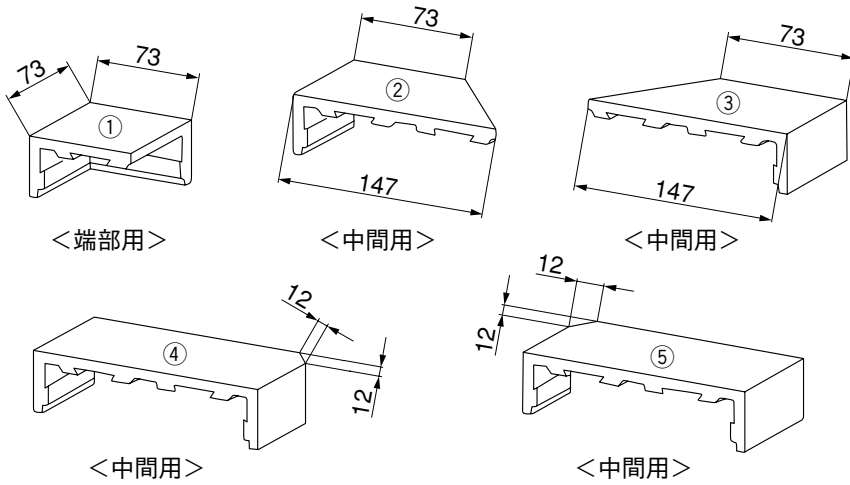
① 横筋用ブロックのフェンス支柱が入る孔の上端をくりぬき、逆に下端をテープ、発泡剤で塞いでください。

② ブロックを積んだのち(3.堀仕様ブロック施工方法参照)横筋を2本、フェンス支柱の前後にくるように配筋し、縦筋と針金で連結してください。

③ ブロックの天端のモルタルを平らに施した後、フェンス支柱のくる位置の笠木を形状に合わせてカットしてください。

④ 8.タイル張りを参照して笠木を張ってください。

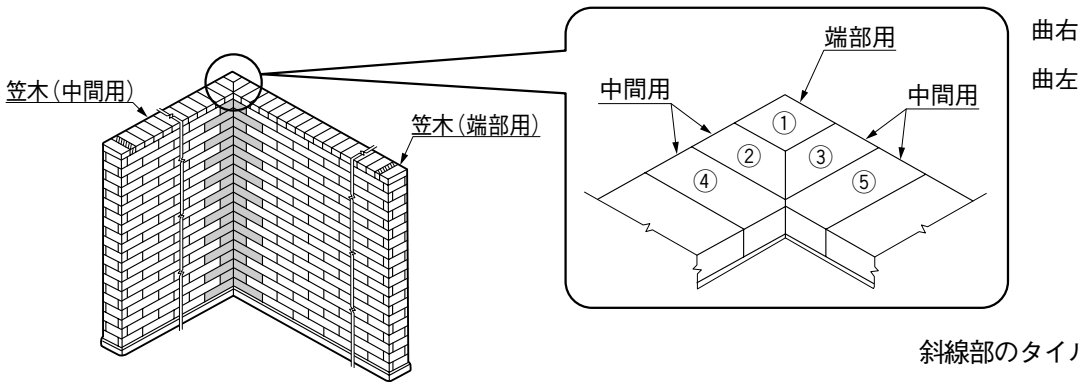
6. 割付確認のためのタイル仮固定



<注意>

- タイルカット寸法は、90度コーナー時の参考寸法です。現場に合わせて適切な寸法に切断してください。

タイルカット図



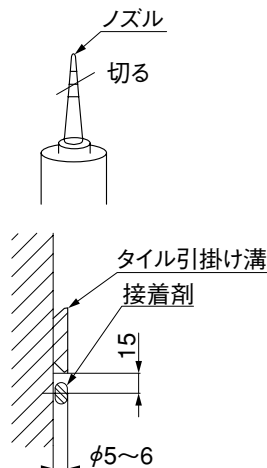
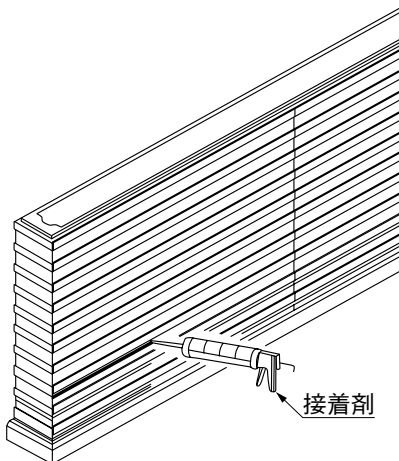
斜線部のタイルは切物となります。

- ① タイルを下2段分ブロックに仮固定してタイルの割付を確認してください。
- ② タイルはコーナー役物から順に張付けてください。最後は切物で調整してください。
- ③ タイルは接着剤を用いてり付けてください。(7.接着剤の塗布のページを参照してください。)

<注意>

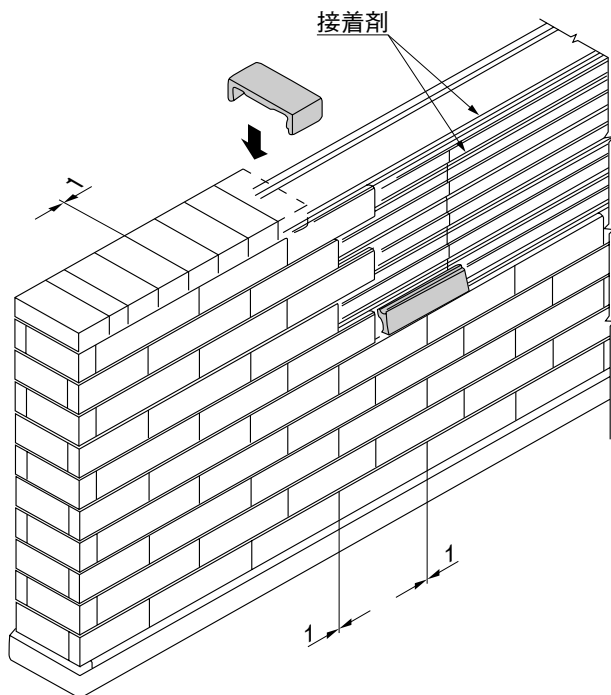
- タイルの張付けはブロック施工後完全にモルタルが硬化してから行なってください。

7. 接着剤の塗布

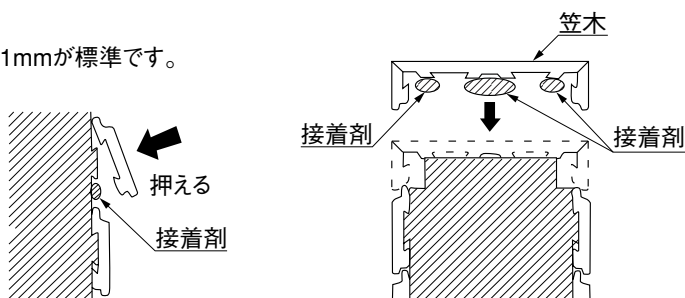


- ① 接着剤は当社指定の物を必ずご使用ください。
- ② 接着剤のノズルをカッター等で切ってください。(ノズルに付いている溝のうち下から2番目を切りますと所定の量を出しやすくなります。)(φ5~8)
- ③ タイル引掛け溝の約15mmの所へ塗布してください。(塗布料の目安は接着剤1本で1m²です。)

8. タイル張り



目地幅は1mmが標準です。



- ❶ タイルは下段から上段へ張っていきます。
- ❷ 二丁掛け平、曲右、左タイルは引っ掛けてから接着剤に押し付けてください。
- ❸ 笠木の凸部(3~4箇所)に接着剤をダンゴ状に塗ってしてからブロック天端に押し付けてください。

<注意>

- 上下、左右のバランスを調整しながら行ってください。

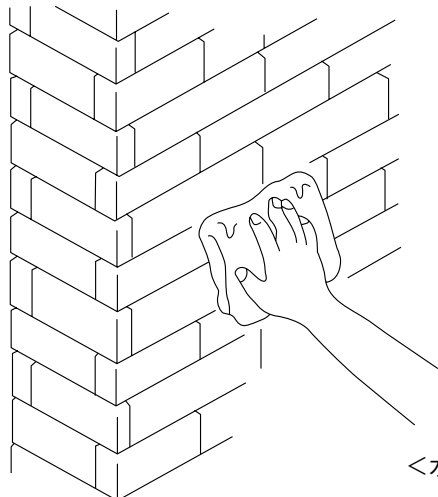
- ❹ 目地の調整は、接着塗布後60分以内に行なってください。

<注意>

- タイル表面に接着剤が付着しないようご注意ください。万一付着した場合は、硬化する前にただちに拭き取ってください。

9. タイルの清掃

- タイルの表面に白い粉が付いていますが、水拭きで簡単にとれます。酸洗いや溶剤拭きは行なわないでください。

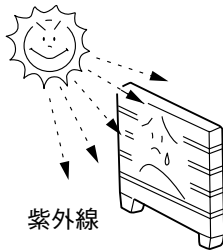


シンナー等



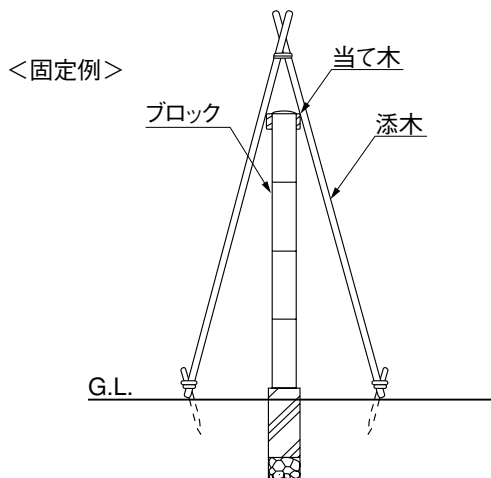
10. 施工上の留意点とお願い

- ブロックは太陽光線のもとに長時間さらすと紫外線の影響により表面が劣化するおそれがあります。
 <在庫時> 直射日光に当たらない場所に置くか、シート等をかけて直射日光をさえぎってください。
 <施工時> 施工後は速やかにタイル張りを行なってください。日を置く場合は必ずシートや、段ボール等で養生してください。



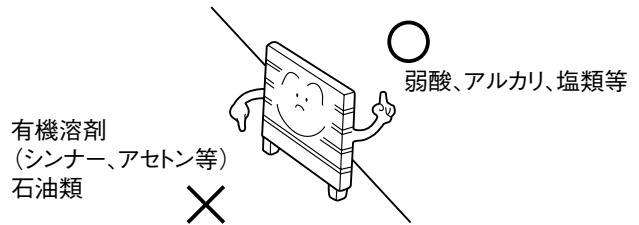
- ブロックに充填するモルタルの配合は1:3（セメント砂）で使用してください。左官用の計量骨材等は強度低下を招きますので絶対に使わないでください。

- ブロックの施工後は充填したモルタルが完全に硬化するまで、必ず添木等でブロックを固定してください。固定しなかったり、不十分だったりすると風や人の接触による揺れでモルタル柱の強度が低下します。

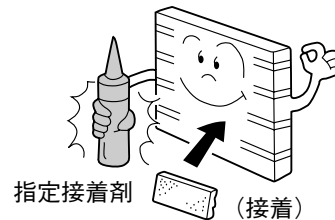


- タイルはJISA5209（陶磁器質タイル）で種類・形状および寸法・外観・反り等の基準が規定されており、テグラウォールのタイルもこれに準じております。ただし、長さ、幅、反りについては許容値が大きい事をご承知おきください。
- タイルには焼き物特有の色幅があり、これが独特の風合いとなります。

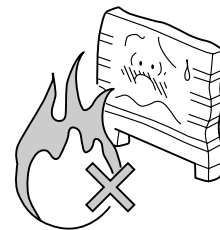
- ブロックの化学的性質は弱酸、アルカリ、塩類等には優れた抵抗性を持っていますが、アルコール以外系の有機溶剤や石油類に侵される性質を持っています。これらの物を付着させないように、ご注意ください。



- タイルの接着には必ず当社指定の接着剤を使用してください。他の物を用いますと接着剤に含まれる有機溶剤でブロックが侵されたり、接着不良を起こしたりします。



- ブロックは自己消化性グレードの原料を用いていますが、火気があたり続けると軟化や融解をします。火気は近付けないでください。



工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタル等は完全に拭き取ってください。硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。
- みだりに改造、変更はしないでください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。
- ご使用いただきましてありがとうございます。

施主様へ

- 月に1度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取ってください。また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード

B031

RWA603585

IF-I①

200410C_1001